

豊田市の幹線道路網整備等 に関する要望書

成長力の強化

地域の活性化

安全安心の確保

国道153号豊田北バイパス
(矢作川渡河部橋梁暫定供用イメージ)



ものづくり中枢都市
(燃料電池車ミライの製造ライン)



国道153号伊勢神改良
(現・伊勢神トンネル)



国道155号豊田南バイパス
(4工区完成イメージ)



国道301号松平バイパス
(完成イメージ)



平成29年10月

豊田市幹線道路整備促進協議会

当市のある西三河地方は、世界をリードするものづくり産業の中核としての顔を持つ一方、超高齢社会の進展に伴う労働人口の減少、南海トラフ地震等の大規模地震の切迫、公共施設の老朽化等に伴う維持管理費の増大等の課題を抱えています。このことから、ストック効果を最大限に発揮させ、更なる生産性向上による都市の成長力の強化を図りつつ、市民の安全・安心を確保する取組が急務となっています。

特に道路は、環境にやさしく活力ある都市として持続的な発展に寄与すると同時に、災害時における避難路、物資等の輸送路となる重要な社会基盤です。

今後も地方が真に必要とする道路整備を着実に推進させ、効率的な物流ネットワークの強化を図り、迅速かつ円滑な物流の実現により生産性を向上させることが、当市及び西三河地方の成長力強化、災害に強い安全・安心な暮らしの確保につながるものと考えます。

また、当市は、ラグビーワールドカップ 2019TM 日本大会の開催都市であり、現在、これを契機とした地域交流・地域活性化、都市の国際化に向けた取組を推進しています。

このような状況を踏まえ、下記の事項について特段の配慮をよろしくお願いいたします。

- 1 道路整備に対する地方の切実なニーズを十分に踏まえ、地方が真に必要とする国道、県道、市道のいずれもが着実に整備されるよう、平成 30 年度に必要な予算の確保、並びに必要な予算を安定的・持続的に確保すること**
- 2 人流・物流の効率化によりストック効果を最大限に発揮させ、更なる生産性を向上させるとともに、災害に強い安全・安心な暮らしの確保につながる道路整備を計画的かつ着実に推進すること**
- 3 ラグビーワールドカップ 2019TM 日本大会開催に向け、安全で円滑な輸送、来訪を可能とするため、アクセス道路の整備や主要渋滞箇所の改善に資する事業中路線の大会開幕に合わせた確実な整備を図ること**
- 4 地方創生に全力を挙げている地方自治体が、引き続き、迅速かつ着実な道路整備を推進するため、『道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律』の補助率等の嵩上げ措置について、平成 30 年度以降も継続し、道路整備の促進を図ること**

平成29年10月25日

豊田市幹線道路整備促進協議会

会長 豊田市長

太田稔彦

豊田市議会議長

三江弘海

豊田商工会議所会頭

三宅英臣